

高濃度ビタミン C 点滴療法（癌補助療法）

2005年にアメリカ国立健康研究所、国立ガン研究所、国立食品医薬品局の科学者達は共同で「高濃度のビタミン C はガン細胞を殺す」という論文をアメリカ科学アカデミー紀要に発表しました。続いて、2006年3月には高濃度ビタミン C 点滴療法で長期生存を続けている3人のガン患者さんについてカナダ医師会雑誌に論文が発表されました。さらに2007年には「高濃度ビタミン C 点滴療法がガン患者の痛み、倦怠感、食欲低下、不眠などの諸症状を改善し、QOL（生活の質）を改善する」と韓国医師会雑誌に論文が発表されています。そして、現在はアメリカやカナダの多くの医師らが高濃度ビタミン C 点滴療法をガン患者に行うようになり、この治療を受ける患者の数は急増しています。

研究面でもカンザス大学、ジェファーソン大学、アメリカの民間ガン専門総合病院グループはそれぞれアメリカ国立健康研究所の認可を得て卵巣ガン、悪性リンパ腫、すい臓ガン、末期ガンに対する高濃度ビタミン C 点滴療法の効果について臨床研究が開始もしくは予定され、韓国では白血病に対する臨床研究が始まっています。

当院は点滴療法研究会の研修を受け、アメリカで実施されている「高濃度ビタミン C 点滴療法の標準的プログラム (Riordan IVC protocol)」と同じものを患者様へ安全に提供します。

<大量のビタミンC点滴が、ガン治療を補助する>

高濃度ビタミンC点滴療法の特徴は、抗がん剤による嘔気や嘔吐、脱毛そして骨髄抑制といった副作用がなく、ガン細胞を叩くことです。その効果は、腫瘍が縮小するだけでなく、抗がん剤治療と併用した場合、治療効果を相乗的に高める一方、抗がん剤の副作用を弱めます。さらに、

- ガンの痛みが和らぐ
- 食欲がわく
- 体力が回復する

など、QOL（生活の質）が改善し、治療の大半が入院生活だけで終わることなく、家族と充実した過ごす時間を生み出してくれなどの効果も期待できます。これは、癌治療を受ける本人はもとより、家族の方にとってもとても大事なことと考えます。

現在抗がん剤治療や放射線治療を受けられている方・すでに上記のがん治療や手術を受けられて治療経過をみている方・ガンの出現や再発を心配されている方・さらに、全身転移のある末期ガンで手遅れとあきらめてしまっている方 など、

ぜひ、この高濃度ビタミンC点滴療法を試される価値があると思います。

決して、現在のがん治療を否定するものではありません。担当主治医のもと治療は続けて下さい。この治療は、保険外治療ですので、実費でございます。ご了承下さい。

<適応する症状>

- 早期～末期までのがんの治療（他院で抗がん剤や放射線治療を受けている方も治療が受けられます）
- がんの転移・再発の予防
- 抗がん剤や放射線治療ができない方の治療
- がんの予防（通常の検査で見えない微小ながんがあると想定して副作用のない抗がん治療として受けられます）

<効果・効用>

- がん細胞の直接殺傷作用（微小がんから進行がんまで、がんの部位、種類は問いません）
- 免疫強化作用（がん殺傷効果、感染症予防効果）
- 抗がん剤の副作用軽減（肝機能や骨髄機能の回復、発毛促進など）
- がんの予防（通常の検査で見えない微小ながんがあると想定して、副作用のない抗がん治療として受けられます）

<治療の流れ/ 投与量・投与方法について>

最初はビタミン C15g から点滴を始め、25g、50g と増量します。血液中のビタミン C 濃度を測定し、投与するビタミン C の理想的な投与量を決定します。典型的な例では週に 2 回の点滴で 6 ヶ月間継続、その後の経過が良ければ週 1 回を 6 ヶ月、さらに 2 週に 1 回を 1 年間、その後は月に 1 回行います。

ビタミン C の量と点滴頻度は病状によって変えていきます。

なお、この治療を続けることにより免疫システムの増強、ガン性疼痛の軽減、食欲の改善や体調の改善が期待できます。(医師の判断で変わります)

<治療を受けられない方>

G6PD 欠損症という赤血球膜の遺伝性酵素異常がある方はこの治療を受けることができません。もしこのような病気がある場合は必ず主治医に教えてください。なお、点滴療法研究会会員は、25 g ~50 g 以上の高濃度ビタミン C 点滴療法を受ける場合に必ず G6PD の検査を実施します。

透析中の腎不全の方はこの治療を受けることはできません。心不全、大量の腹水、強い浮腫のある方は、点滴で水分を血管内に入れることで病状の悪化を来す恐れがあるためにこの治療ができない場合があります。